

平成28年度事業報告書(H28. 4. 1～H29. 3. 31)

平成28年度の日本経済は、いまだ社会保障の先行き不安などが消費者心理に作用し、完全に活気が戻るまでには至っていません。そのような状況下で、国内医療用医薬品市場もここ数年低成長が続き、この傾向が大きく変化することは当面期待出来ないと考えられます。

多くの公益法人がファンドレイジングに苦慮する中、当財団も例に漏れず、賛助会員の減少や賛助会費の減額に見舞われていますが、一方で中核賛助会員企業からの強力な支援を得ることもでき、世界骨粗鬆症デー(WOD)キャンペーン2016をはじめ多くの事業を展開することができました。

特にWODポスター・リーフレットは配布した病院や自治体から多くの好評をいただきました。従来のような紙ベースの資材以外にも、啓発動画配信や講習会eラーニングは閲覧が順調に伸長しています。

平成28年度決算については2期連続の黒字となり、資金繰りは良好と言えます。ただし収益を大きくけん引するのは、「骨粗鬆症予防と治療のガイドライン2015」の著作権から発生する転載許諾料であり、賛助会費や寄附金を安定した収入源として計上するためにも、新たなターゲット獲得が必要であるのは、先の理事会において平成29年度事業計画として示した通りです。平成28年度で土台を築いた個々の事業をさらに発展させるため、今後も鋭意進めて参る所存です。

以下に平成28年度の活動内容を概説致します。

【公益目的事業】

(1) 普及・啓発事業

イ) 骨粗鬆症に関する資材・資料の作成と配布

〈既存の資材〉

ホームページの請求フォーム、電話等から受付、原則無料配布

〈新規作成資材〉

世界骨粗鬆症デー ポスター・リーフレット 2種

①「え！私の骨大丈夫？」

②「あなたが骨まで愛してるって言ってくれたから・・・」

ポスター 29,000枚 リーフ 453,000枚

ロ) ホームページの運営と更新作業

アクセス数(ページビュー: Webページが閲覧された回数)の推移

2015年: 67,000/月

2016年: 83,000/月

・「病医院リスト」登録数 1,926軒(平成29年5月10日現在)

・トップページへのバナー広告掲載で運営費の確保(11社)

ハ) 世界骨粗鬆症デー・キャンペーン(WOD)の取組み

① プレスセミナー

日 時: 平成28年9月28日(水) 15時～16時

場 所: 東海大学校友会館 富士の間(東京都千代田区)

講 演: 開会の辞「世界骨粗鬆症デーに寄せて」 太田博明先生

「Love Your Bones: Protect Your Future」 竹内靖博先生(虎の門病院)

「健康寿命の延伸と骨粗鬆症対策」 栗本景介氏(厚生労働省)

ブース: プレス関係者の骨量測定(QUS)体験コーナー

出席者: メディア関係者 21社22名。JAPAN MEDICAL SOCIETY、社会保険ニュース、しんぶん赤旗など9誌に当日の紹介記事掲載を確認

②第5回市民公開講座「ご存知ですか？骨の健康～明日のあなたを守るために～」

日 時：平成28年10月2日(日) 13時～15時

場 所：両国KFCホール(東京都墨田区)

講 演：

「ロコモを知って足・腰元気！」佐藤公一先生(佐藤整形外科)

「ご存知ですか？骨を守る女性ホルモン」岡野浩哉先生(飯田橋レディースクリニック)

「健康寿命を支える運動」小原桂子先生(健康院クリニック)

「健康寿命延伸のための食事のポイント」塚原典子先生(帝京平成大学)

ブース：骨量測定体験、出展コーナー(乳製品、FRAX値測定)

来場者：175名(骨量測定：約100名)

③ポスターとリーフレットを作成し全国の1764自治体や病医院に配布(前述 →イ)

④動画作成・展開

・様々な年代の人物を登場させ、骨量測定を促す動画を作成

「あなたご自分の骨の量をご存知ですか？」(15秒、30秒バージョン)

・財団ホームページ上で公開

(閲覧件数 15秒-231回 30秒-168回：平成29年5月10日現在)

・動画希望者にダウンロードファイルかCD-ROMにて無料提供

(個人賛助会員・日本骨粗鬆症学会員等に告知)

・JR巣鴨駅デジタルサイネージ(電子看板)にて放映(10月1日～31日)

⑤世界骨粗鬆症デー当日イベント

日 時：平成28年10月20日(木) 11時～15時半

場 所：巣鴨地蔵通り商店街「すがもん広場」(東京都豊島区)

内 容：世界骨粗鬆症デーのリーフレット配布／握力測定／身長測定／

FRAX測定／商店街キャラクター「すがもん」と記念撮影

参加者：約300名

二)地域骨を守る会の支援・連携

各骨を守る会に助成金を支給

ホ)骨粗鬆症財団ニュースの発行・メール配信

(主な内容)

No. 29(6月) 「WCO-IOF-ESCEO Congress 2016 in Malaga」

No. 30(11月) 「World Osteoporosis Day Campaign 2016」

へ)教育セミナーの開催及び記録集の作成

第66回(平成28年7月1日(金) 14時～16時30分 AP東京八重洲通り F+Gルーム)

受講者：50名

座長：井上哲郎 先生

講演Ⅰ 「糖尿病に合併する骨粗鬆症の特徴と対策について」

島根大学医学部内科学講座内科学第一 講師 金沢一平先生

講演Ⅱ 「骨粗鬆症とCKD ～CKDにおける骨粗鬆症薬の使い方～」

大阪大学大学院医学系研究科腎疾患統合医療学 准教授 濱野高行先生

第67回「橈骨DXAの正しい使い方」

(平成28年11月25日(金) 14時～17時 AP東京八重洲通り Aルーム)

受講者：38名

座長：井上哲郎 先生

- 講演Ⅰ 「橈骨骨密度測定による骨評価の位置づけ」
川崎医科大学 放射線医学(核医学) 教授 曾根照喜先生
- 講演Ⅱ 「日常診療における橈骨DXAの活用:現状と問題点」
額田記念病院 整形外科 漆原信夫先生
- 展示: 橈骨X線骨密度測定装置(協力:株式会社日立製作所)

ト)精度よくDXAで骨量測定するためのeラーニング

ホームページにて平成29年3月15日より視聴開始(視聴申込:330名(5月10日現在))

講師:福永仁夫先生、曾根照喜先生、友光達志先生

チ)電話、E-mail、ホームページから寄せられる相談・質問等への対応

ホームページから質問・相談 243件(月平均 20件)

資料の請求 452件(月平均 38件)

| | 資料名 | 送付部数 |
|----------|---------------------|--------|
| 保健指導シート1 | カルシウムを多く含む食品 | 22,317 |
| 保健指導シート2 | ビタミンD/Kを多く含む食品 | 17,948 |
| 保健指導シート3 | 丈夫な骨をつくる骨粗鬆症予防・改善体操 | 11,164 |
| 保健指導シート4 | 毎日つづけようロコモ運動 | 11,180 |
| 保健指導シート5 | 転倒予防のために 安全な住まいづくり | 2,528 |
| 3つ折りB5 | 骨の健康、考えてますか? | 7,363 |
| 3つ折りB5 | 骨粗鬆症の予防は成長期から | 15,385 |

リ)骨粗しょう症友の会の検討

・骨粗鬆症患者の会WGの開催

第1回:平成28年5月22日(日) 13時~15時

AP東京八重洲通り Jルーム

(議題)

1. 「骨粗しょう症友の会」アンケート結果
2. 今後の進め方(患者を対象としたアンケート、スケジュール等)

第2回:平成28年9月5日(日) 13時~15時

AP東京八重洲通り Jルーム

(議題)

1. 「骨粗しょう症友の会」のスキームについて(予算・情報提供の仕方)
2. 財団内での進め方

又)その他

記事監修・編集協力

- ・よみうり女性と健康プロジェクト『閉経後の女性は要注意 骨粗鬆症』(読売夕刊11月30日)
- ・『寝たきりにならない 骨粗鬆症を一掃!』「健康365」2017年3月号(いちばん社)
- ・『女性に多い「骨粗鬆症」予防と治療で骨折を防ごう』(SUUMO介護サイト)
- ・後援:市民公開講座 中高年女性へのメッセージ「骨の健康を守るヒケツ」(MBP研究会)

(2) 研究助成事業

イ) 平成27年度助成分をまとめ『研究助成報告集』を作成

- ・第23回財団研究助成報告書 5題
- ・第12回リリー研究助成プログラム報告書 10題
- ・第8回旭化成研究助成プログラム報告書 8題

ロ) 平成28年度分として次の3助成に対する交付を行った。

- ・第24回(平成28年度)財団研究助成
- ・第12回(平成28年度)リリー研究助成プログラム(骨領域研究)
- ・第9回(平成28年度)旭化成研究助成プログラム(骨粗鬆症QOL研究)

○ 第24回(平成28年度)財団研究助成の交付 (研究期間:平成28年4月～29年3月)

【一般課題】 助成金額:1件60万円 応募者数 63題

| | 課 題 | 所 属 | 氏 名 |
|---|--|----------------------------|-------|
| 1 | 骨芽細胞増殖機構に注目した骨粗鬆症の病態機序の解明 | 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科整形外科学分野 | 猪瀬 弘之 |
| 2 | 新規破骨細胞制御因子Zscan10制御による骨粗鬆症病態解明 | 愛媛大学プロテオサイエンスセンター病態生理解析部門 | 今井 祐記 |
| 3 | 骨粗鬆症ならびにメタボリック症候群に關与する骨由来内分泌因子の探索ならびに臨床的意義の解明 | 東京大学医学部附属病院老年病科 | 浦野 友彦 |
| 4 | 骨粗鬆症とびまん性特発性骨増殖症の關連 | 和歌山県立医科大学整形外科学教室 | 籠谷 良平 |
| 5 | 健常喫煙者における禁煙前後の骨代謝動態の変化と炎症性サイトカインおよびalarminの役割の解明 | 帝京大学ちば総合医療センター第3内科 | 渡部 玲子 |

【指定課題】(中外製薬寄附金) 助成金額:1件100万円 応募者数 11題

| | 課 題 | 所 属 | 氏 名 |
|---|--|--------------------------|-------|
| 1 | 2015年 新潟県高齢者骨脆弱性骨折発生状況に関する疫学調査 | 新潟大学大学院医歯学総合研究科地域医療長寿学講座 | 今井 教雄 |
| 2 | 骨粗鬆症性骨折と非カルボキシル化オステオカルシンは血管石灰化発生を予測できるか-JPOSコホートスタディによる縦断的検討 | 大阪医科大学衛生学・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ | 玉置 淳子 |
| 3 | 思春期男女における、カルシウムやビタミンD増加のための栄養・食事指導による、最大骨量蓄積効果の検証:4か月間の縦断研究 | 京都光華女子大学健康科学部 健康栄養学科 | 廣田 孝子 |

◇第12回(平成28年度)リリー研究助成プログラム(研究期間:平成28年1月~28年12月)
助成金額:1件80万円 応募者数 54題

| | 課 題 | 所 属 | 氏 名 |
|----|---|---------------------------|-------|
| 1 | 各骨粗鬆症薬使用によるインプラントを用いた脊椎手術における術後合併症抑制効果に関する検討-三次元有限要素モデルを用いた椎体強度変化および引き抜き強度に関するトランスレーショナルリサーチ- | 千葉大学大学院医学研究院 整形外科学 | 稲毛 一秀 |
| 2 | 多施設共同臨床研究による非定型大腿骨骨折の発症要因の解明 | 東京医科歯科大学院医歯学総合研究科 整形外科学分野 | 王 耀東 |
| 3 | 大腿骨近位部骨折患者と認知症と関連についての検討 | 東北大学 CYRIC 高齢者高次脳医学寄附研究部門 | 葛西 真理 |
| 4 | ヒト短時間睡眠におけるレプチン-交感神経系-骨量連関の検討 | 京都府立医科大学 地域保健医療疫学教室 | 栗山 長門 |
| 5 | 関節リウマチ患者における潜在的な大腿骨外側骨皮質肥厚 (beaking) と大腿骨非定型骨折(AFF)に関する研究 | 新潟大学大学院医歯学総合研究科 腎膠原病内科 | 佐藤 弘恵 |
| 6 | 社会的インパクトを考慮したビタミン D の必要量に関する検討 | 京都女子大学家政学部 食物栄養学 | 田中 清 |
| 7 | 日本人原発性骨粗鬆症の皮質骨微細構造に関する研究:HR-pQCTによる横断調査 | 長崎大学病院 整形外科 | 千葉 恒 |
| 8 | 大腿骨転子下/骨幹部における皮質骨厚の基準値に関する検討 | 富田浜病院 整形外科 | 新美 壘 |
| 9 | 関節リウマチ患者における生物学的製剤使用と骨折リスクの関連;IORRA コホートにおける検討 | 東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター | 古谷 武文 |
| 10 | 骨コラーゲンの質的要素を考慮した有限要素解析による骨強度測定法の確立 | 千葉大学医学部附属病院 整形外科学 | 松浦 佑介 |

△第9回(平成28年度)旭化成研究助成プログラムの交付(研究期間:平成28年4月~29年3月)
助成金額:1件50万円 応募者数 36題

| | 課 題 | 所 属 | 氏 名 |
|---|---|--------------------------|-------|
| 1 | 脊髄障害と骨粗鬆症 -運動機能と QOL への影響- | 名古屋大学大学院医学系研究科 整形外科学 | 安藤 圭 |
| 2 | アクチグラフィ(ウェアラブル端末)を用いた各骨粗鬆症薬投与による QOL 改善効果判定-活動量測定・睡眠解析による新たな治療効果判定法の確立- | 千葉大学大学院医学研究院整形外科学 | 稲毛 一秀 |
| 3 | 高齢者施設入居・入所者において、身長低下が ADL・QOL に及ぼす影響 | 神戸学院大学 栄養学部 | 太田 淳子 |
| 4 | 脆弱性骨折が主観的幸福度に及ぼす影響 -関節リウマチ患者での検討- | 兵庫県立尼崎総合医療センター 膠原病リウマチ内科 | 蔭山 豪一 |
| 5 | 生体インピーダンス(BIA)法を用いた各骨粗鬆症薬投与による QOL 改善効果(筋量変化)に関する検討 | 千葉大学大学院医学研究院整形外科学 | 志賀 康浩 |

| | | | |
|---|------------------------------------|-------------------|-------|
| 6 | 認知機能へ影響を与える骨粗鬆症性椎体骨折の特徴 | 大阪市立大学 整形外科 | 高橋 真治 |
| 7 | 関節リウマチによる続発性骨粗鬆症におけるサルコペニアとQOLの関係性 | 大阪市立総合医療センター 整形外科 | 多田 昌弘 |
| 8 | 老人ホーム入居者のサルコペニアと骨粗鬆症の実態およびQOLへの影響 | 名古屋大学医学部附属病院整形外科 | 飛田 哲朗 |

ハ)次年度(平成29年度)分の助成募集と選考を行った。

- ・第25回(平成29年度)財団研究助成
- ・第13回(平成29年度)リリー研究助成プログラム(骨領域研究)
- ・第10回(平成29年度)旭化成研究助成プログラム(骨粗鬆症とそれを取り巻く諸問題)

○第25回(平成29年度)財団研究助成(研究期間:平成29年4月～30年3月)

募集期間:平成28年11月1日～12月25日

一次審査:平成29年1月11日～1月27日

選考委員会の開催:

- ・平成29年2月11日(土) 16時～17時30分
- ・AP東京八重洲通り Jルーム
- ・選考委員 井上大輔先生、竹田 秀先生、岩本 潤先生、寺内公一先生
- ・選考 :【一般課題】助成金額:1件 60万円 5題 応募者数 30題
【指定課題】助成金額:1件100万円 2題 応募者数 5題(うち1題は申請取り下げ)

◇第13回(平成29年度)リリー研究助成プログラム(研究期間:平成29年1月～12月)

募集期間:平成28年7月1日～8月31日

一次審査:平成28年9月13日～10月17日

選考委員会の開催:

- ・平成28年10月28日(金) 17時～17時45分
- ・ANAクラウンプラザホテル神戸「メリッサ」
- ・選考委員 井上哲郎先生、松本俊夫先生、堂地 勉先生、藤原佐枝子先生
- ・選考 助成金額:1件80万円 10題 応募者数 44題

△第10回(平成29年度)旭化成研究助成プログラム(研究期間:平成29年4月～30年3月)

募集期間:平成28年9月1日～10月31日

一次審査:平成28年11月2日～11月30日

選考委員会の開催:

- ・平成28年12月12日(金) 18時30分～20時
- ・東海大学校友会館「有明」
- ・選考委員 林 泰史先生、太田博明先生、細井孝之先生
- ・選考 助成金額:1件50万円 8題 応募者数 55題

(3) 調査・研究事業

イ) 骨粗鬆症治療薬の服用に関するアンケート調査(Happiness J-Study)

・「第5回世話人会」を開催

平成28年7月23日(土) 7時30分～8時10分

大阪国際会議場 806会議室

本研究の当初の目的である経口BP剤の服薬嗜好性に加え、骨折や運動機能についての解析結果を論文化することで合意

・第18回日本骨粗鬆症学会にて発表

・ビスホスホネート服薬嗜好性の全国調査(萩野:ポスター P6-7)

・ビスホスホネート製剤で治療中の日本人閉経後骨粗鬆症患者における新規骨折発症に関連する因子の解析(竹内:口演 58)

・ビスホスホネート服用男性骨粗鬆症患者における骨折寄与因子(岡崎:口演60)

・ビスホスホネート服用者におけるロコモ度1、2の頻度(田中:ポスター P6-8)

ロ) 骨粗鬆症実態調査

北海道の電子レセプトデータを利用した骨粗鬆症診療実態調査

・第3回実態調査WGの開催

平成28年8月28日(日) 16時～18時

AP東京八重洲通り D+Eルーム

(議題)

1. 日本骨粗鬆症学会での発表内容について

2. NDB利用申出の経過報告

・第18回日本骨粗鬆症学会にて発表

電子レセプトデータを用いた骨粗鬆症診療の実態調査

ー北海道地区在住の後期高齢者での検討(中藤:口演 168)(平成28年10月7日)

・ナショナルデータベース(NDB)の利用申請

→ レセプト情報提供等に関する承諾通知書(平成28年10月25日:厚生労働大臣)

これにより全国の電子レセプトデータによる大腿骨近位部骨折例の都道府県別・年齢階層別集計表を入手(当初平成29年3月予定→7月に延期)

ハ) 大腿骨近位部骨折発生率全国調査

・オープンアクセス化

Osteoporosis International 誌

May 2016, Volume 27, Issue 5, pp 1777-1784

『Hip fracture incidence in Japan: Estimates of new patients in 2012 and 25-year trends』

DOI: 10.1007/s00198-015-3464-8 (左記DOIにて論文閲覧自由に)

・ポスター発表

WCO-IOF-ESCEO MALAGA 2016 (平成28年4月16日)

(4)情報収集&ロビー活動等

イ)IOF関連

折茂理事長:

- ・WCO-IOF-ESCEO MALAGA 2016 参加
IOF Board Meeting(4/13)、CNS会議(4/13)
平成28年4月14日～17日
マラガ国際会議・集会場(スペイン・マラガ)
- ・Board Web会議出席(平成28年11月17日 17時～18時30分:日本時間)
- ・IOF Regionals 6th Asia-Pacific Osteoporosis Meeting 参加
平成28年11月4～6日
サンテック・シンガポール国際会議展示場(シンガポール)

事務局:

- ・IOF Regionals 6th Asia-Pacific Osteoporosis Meeting ブース展示
- ・WCO-IOF-ESCEO FLORENCE 2017
IOF Worldwide Conference of Osteoporosis Patient Societies 2017 参加
WCO-IOF-ESCEO FLORENCE 2017ブース 出展
平成29年3月23日～26日
フィレンツェ・バツソ要塞(イタリア・フィレンツェ)

※後日、Russian Osteoporosis Associationのホームページにて本財団が紹介

ロ)健康日本21推進全国連絡協議会との情報交換

- ・会議等出席
第1回分科会(平成28年11月4日)
「健康スポーツ医と運動指導者の連携による糖尿病予防」
第2回分科会(平成29年1月19日)
「健康づくりはまちづくり」
第19回総会(平成29年2月16日)
- ・協議会会員へメール配信
2016-8-23会員レターH28-21 「公益財団法人骨粗鬆症財団の活動紹介」
- ・「受動喫煙防止対策」運動 賛同

(5)その他

イ)賛助会員の会

日 時:平成28年4月20日(水) 16時～18時
場 所:AP東京八重洲通り Gルーム
出席者:22社
主な議事:財団の普及啓発事業の概要／関係者が連携した啓発活動について

【収益事業等】

イ)著作権関連事業

「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015」からの転載許諾対応